

2010年12月の東北地方の天候

【12月の特徴】

- 記録的な多雨
- 高温
- 中旬中頃と下旬の大雪

(1) 2010年12月の概況

この期間、低気圧や気圧の谷の影響を受けることが多かった。東北日本海側では曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側では天気はおおむね数日の周期で変わった。3日から4日にかけて、22日から23日にかけて及び31日は発達した低気圧の影響で各地で大荒れの天気となった。中旬中頃と下旬中頃は、強い寒気が南下し東北日本海側を中心に大雪となった。

気温は、冬型の気圧配置が続かず、12月としては暖かい空気におおわれる日が多くなったため、かなりの高温となった。東北地方の降水量は、低気圧の影響を受けることが多く大雨となった日もあり、1946年の地域平均の統計開始以来12月としては最も多くなった。

月平均気温は東北地方でかなり高い。月降水量は東北地方でかなり多い。月間日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側でかなり少ない。降雪の深さの月合計平年比は東北日本海側で85%と平年並、東北太平洋側で74%と平年並。

(2) 各旬の天候経過

上旬：この期間、低気圧が周期的に通過し、低気圧の通過後は一時冬型の気圧配置となった。東北日本海側では曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側では天気は周期的に変わった。3日から4日にかけては、発達した低気圧が北日本を通過した影響で大荒れの天気となった。気温は北日本を中心に暖気におおわれたため、かなりの高温となった。

平均気温は東北地方でかなり高い。降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側でかなり多い。日照時間は東北北部で少なく、東北南部で平年並。

中旬：この期間、低気圧や前線が短い周期で通過した。期間の前半は、低気圧の通過後に冬型の気圧配置となり雪または雨の日が多くなった。期間の後半は、東北日本海側では晴れの日が多くなったものの変わりやすい天気となり、東北太平洋側では晴れの日が多くなった。13日から14日にかけて三陸沖を低気圧が通過し、その後強い寒気の影響で雪となり、東北日本海側を中心に大雪となったところがあった。

平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側でかなり多い。日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。

下旬：この期間、低気圧が短い周期で通過したため、東北地方は雪や雨の日が多くなったが、東北太平洋側では晴れの日もあった。期間の中頃は強い冬型の気圧配置となり、東北日本海側を中心に大荒れ・大雪となった。22日から23日にかけてと31日は低気圧が三陸沖で発達し、東北太平洋側を中心に大荒れの天気となり、31日は岩手県などで大雪となったところがあった。

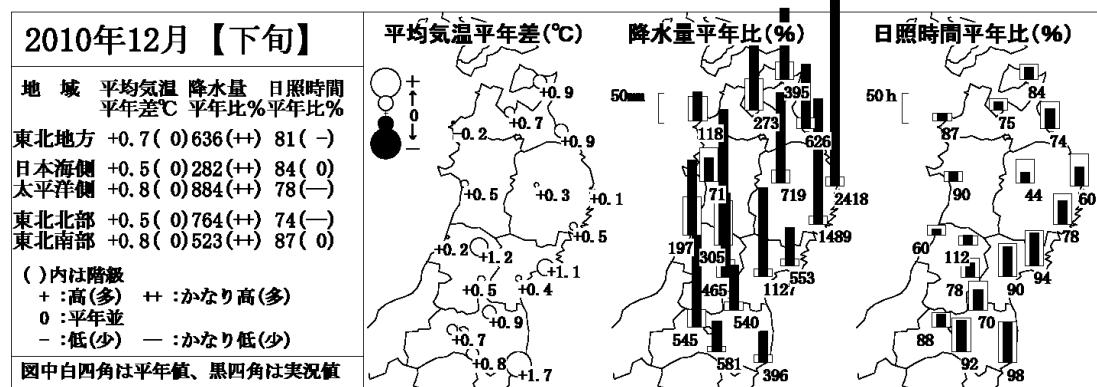
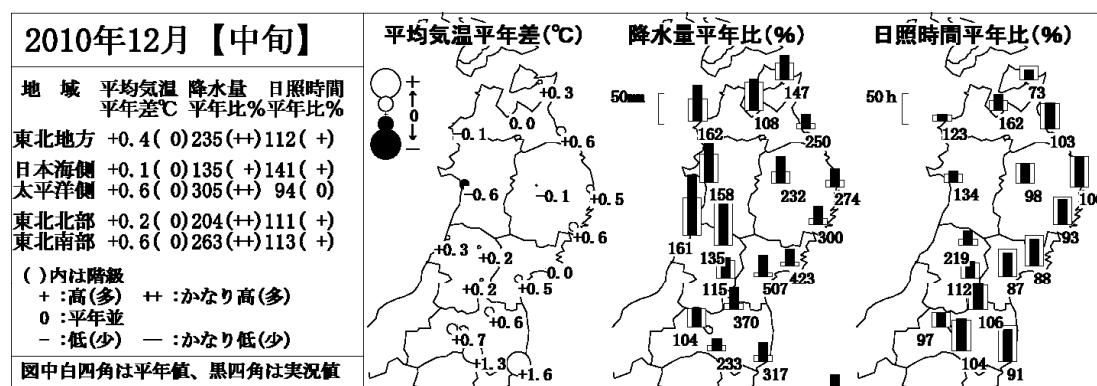
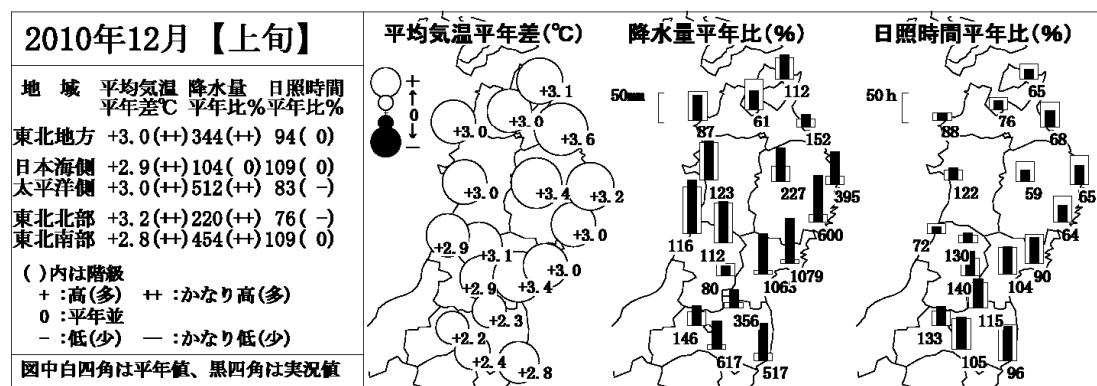
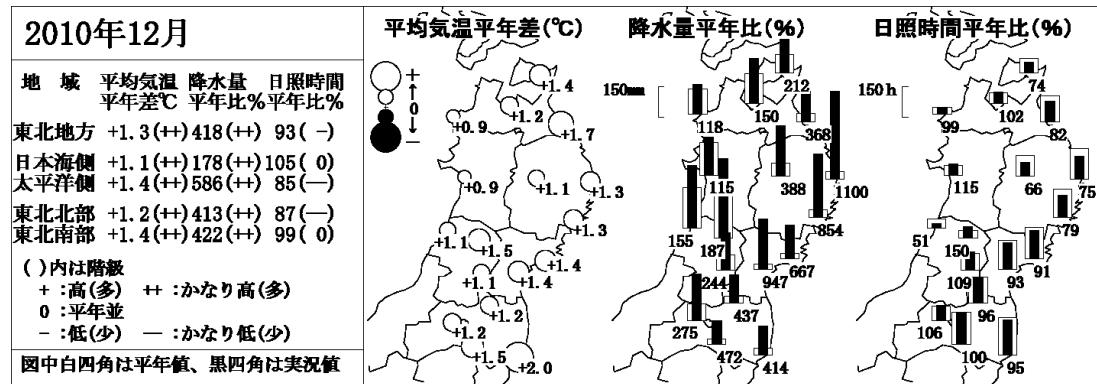
平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北地方でかなり多い。日照時間は東北北部でかなり少なく、東北南部で平年並。

(注) 気候統計値は、東北地方にある17地点の気象台、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については2ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は1971-2000年です。階級区分については、3ページ目脚注2を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区気象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2010年12月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971～2000年。
(注) 細分地域
東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津
東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り
東北北部：青森県、秋田県、岩手県
東北南部：宮城県、山形県、福島県

(4) 2010年12月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差)		階級	降水量(平年比)		階級	降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比)		階級	降雪深さ(平年値)		階級	最深積雪(平年値)		階級
	(°C)	(°C)		(mm)	(%)			(h)	(%)		(cm)	(cm)		(cm)	(cm)	
青 森	2.5	(+1.2)	+	222.5	(150)	+	22	55.6	(102)	○	99	(170)	-*	28	(51)	-
深 浦	3.4	(+0.9)	+	149.0	(118)	+	21	33.8	(99)	○	46	(77)	-	25	(17)	+
む つ	2.6	(+1.4)	+	198.0	(212)	+	22	54.6	(74)	-*	58	(101)	-	8	(24)	-*
八 戸	3.3	(+1.7)	+	153.5	(368)	+	12	104.8	(82)	-*	12	(52)	-*	3	(10)	-
秋 田	3.7	(+0.9)	+	188.0	(115)	+	25	54.6	(115)	+	81	(79)	○	14	(16)	○
盛 岡	1.9	(+1.1)	+	250.0	(388)	+	19	69.0	(66)	-*	111	(68)	+	53	(17)	+
大 船 渡	4.8	(+1.3)	+	315.0	(854)	+	10	109.8	(79)	-*	20	(11)	+	13	(4)	+
宮 古	4.3	(+1.3)	+	439.0	(1100)	+	10	113.4	(75)	-*	23	(19)	○	12	(6)	+
仙 台	5.7	(+1.4)	+	250.0	(947)	+	10	134.8	(93)	-	8	(14)	○	7	(7)	+
石 卷	4.8	(+1.4)	+	165.5	(667)	+	10	141.1	(91)	-	-	(7)	-*	-	(5)	-*
山 形	3.5	(+1.1)	+	188.5	(244)	+	15	93.0	(109)	+	59	(92)	-	25	(23)	○
新 庄	2.9	(+1.5)	+	394.0	(187)	+	21	56.0	(150)	+	162	(168)	○	61	(50)	+
酒 田	5.4	(+1.1)	+	313.0	(155)	+	26	22.9	(51)	-*	51	(64)	○	14	(13)	+
福 島	5.4	(+1.2)	+	142.0	(437)	+	12	125.0	(96)	-	14	(35)	-	7	(10)	○
若 松	3.1	(+1.2)	+	229.0	(275)	+	17	76.2	(106)	○	134	(100)	+	115	(28)	+
白 河	4.2	(+1.5)	+	118.0	(472)	+	6	157.7	(100)	○	5	(25)	-*	5	(8)	○
小 名 浜	8.1	(+2.0)	+	145.0	(414)	+	7	175.6	(95)	○	()	()	()	()	()	()

(注) 1. 平年値は1971～2000年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+:高い(多い) ○:平年並 -:低い(少ない)

各階級の区分値は、1971～2000年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めた。

また、値が1971～2000年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+」に*を付加した。この場合には

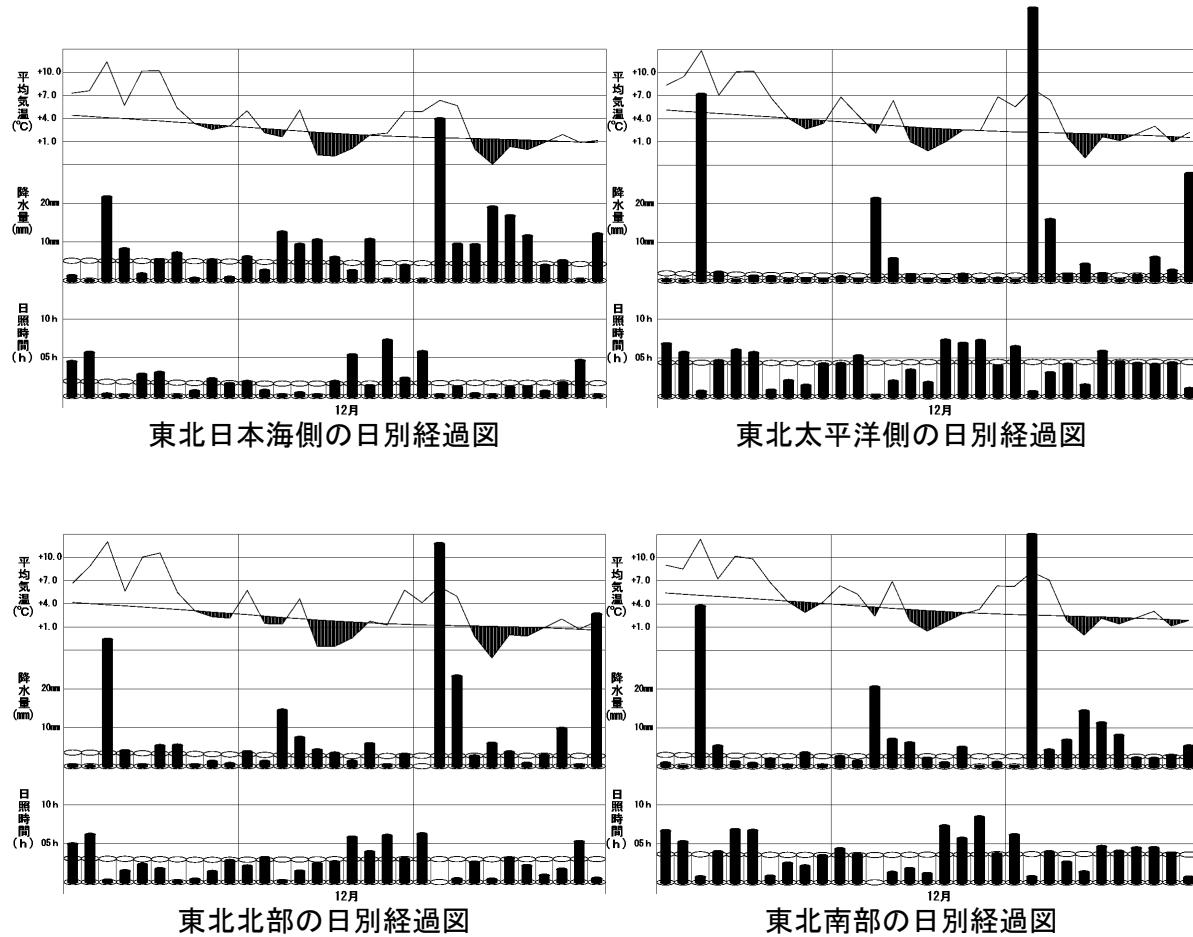
かなり高い(多い) かなり低い(少ない)

と表現できる。

3. 値の横に)や]がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが]付きの値(資料不足値)については、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

(5) 2010年12月の日別経過図



(6) 2010年12月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新

順位	地点名	平均気温 ℃	平年差 ℃	これまでの最高 ℃ (西暦年)	開始年	平年値 ℃
2	小名浜	8.1	+2.0	8.3 (1968)	1910	6.1
3	八戸	3.3 =	+1.7	4.4 (1990)	1936	1.6

月平均気温低い方からの順位更新

3位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最大 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
1	大船渡	315.0	854	169.5 (1980)	1963	36.9
	盛岡	250.0	388	160.0 (1968)	1923	64.5
	宮古	439.0	1100	281.7 (1958)	1883	39.9
	仙台	250.0	947	167.5 (1968)	1926	26.4
	石巻	165.5	667	146.5 (1968)	1887	24.8
2	若松	229.0	275	230.5 (1980)	1953	83.3
	八戸	153.5	368	155.5 (2006)	1936	41.7
3	むつ	198.0	212	305.4 (1946)	1935	93.3
	小名浜	145.0	414	175.5 (1968)	1910	35.0

月降水量少ない方からの順位更新

3位以内はなし

月間日照時間多い方からの順位更新

3位以内はなし

月間日照時間少ない方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最小 h (西暦年)	開始年	平年値 h
1	盛岡	69.0	66	71.5 (1950)	1923	104.4
2	大船渡	109.8	79	103.0 (2006)	1963	139.6

降雪の深さ月合計値多い方からの順位更新

順位	地点名	降雪の深さ月合計 cm	これまでの最大 cm (西暦年)	開始年	平年値 cm
3	大船渡	20 =	54 (2005)	1963	11

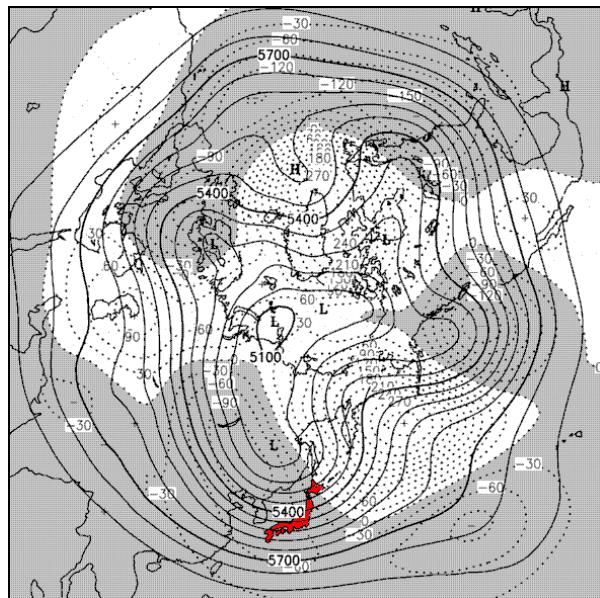
月最深積雪大きい方からの順位更新

順位	地点名	最深積雪 cm	起 日	これまでの最深 cm (西暦年)	開始年	平年値 cm
1	若松	115	26	93 (1980)	1953	28
3	盛岡	53	31	76 (2005)	1924	17

(7) 2010年12月の循環場の特徴

500hPa 高度は、中・高緯度帯は偏西風の蛇行が大きく、正偏差域と負偏差域が交互に並ぶパターンになっている。日本付近で偏西風は、日本の西で南へ蛇行し、日本の東で北へ蛇行する流れとなり、北日本には暖かく湿った気流が入りやすかった。

このため東北地方では、月平均気温はかなり高くなかった。また、低気圧が発達しながら日本付近を通過することがあり月降水量はかなり多かった。



2010年12月の平均500hPa高度

実線は等高度線: 60m毎、点線は偏差: 30m毎
陰影部は負偏差 (寒気に対応)

(8) 2010/2011年寒候期 季節現象

2010/2011年寒候期 季節現象(初日)

官署名	初霜			初氷			初雪		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
青森	10.30	10.23	10.25	11.17	10.29	11.3	10.26	11.7	11.2
秋田	11.17	11.6	×	11.27	11.13	11.3	11.15	11.12	11.2
盛岡	10.19	10.18	10.23	10.27	10.24	11.3	11.15	11.8	11.3
仙台	11.17	11.6	11.22	11.24	11.16	11.22	12.15	11.22	12.7
山形	11.12	10.24	11.18	11.12	10.29	11.18	11.29	11.16	11.3
福島	11.19	11.6	11.4	11.19	11.11	11.4	12.9	11.24	12.14

(注)昨年の秋田の初霜は、積雪によって霜が観測できなかった期間があり、欠測(×)となりました。

初冠雪

山岳名	海拔(m)	本年	平年	昨年	山岳名	海拔(m)	本年	平年	昨年
ハコウダサン 八甲田山	1585	10.26	10.16	11.2	ガンドサン 雁戸山	1485	10.27	10.28	11.2
イワキサン 岩木山	1625	10.27	10.15	11.4	リュウザン 瀧山	1362	10.27	10.30	11.2
タイハイサン 太平山	1170	10.26	10.31	11.2	イズミガタケ 泉ヶ岳	1175	11.29	11.6	11.3
イフタサン 岩手山	2038	10.27	10.13	10.10	ザオウザン 蔵王山	1841	10.27	10.23	11.3
ガッサン 月山	1984	10.29	10.15	11.4	アツマヤマ 吾妻山	1949	10.27	10.21	11.3
アサヒダケ 朝日岳	1871	10.27	10.19	11.4					

(注)蔵王山は熊野岳、吾妻山は一切経山の標高を示す。

*若松測候所が2010年10月1日に特別地域気象観測所へ移行をしたことに伴い、若松における寒候期季節現象および飯豊山と磐梯山の初冠雪の観測は終了しました。